

「中津川小学校の横瀬棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立中津川小学校

2 学年・人数

3年生 10人 4年生 2人 5年生 2人 6年生 9人 (計 23人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成 29 年 4 月 10 日 総合的な学習の時間 (本校体育館)

平成 29 年 9 月 11 日 総合的な学習の時間 (本校体育館)

平成 30 年 3 月 5 日 総合的な学習の時間 (本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

平成 29 年 4 月 15 日 藤まつりオープニングイベント (和気神社)

平成 29 年 9 月 30 日 保育園・地区公民館合同秋季大運動会

(本校校庭)

平成 30 年 3 月 18 日 龍馬ハネムーンウォーク (本校体育館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

横瀬棒踊り (よこせぼうおどり)

(2) 由来

横瀬棒踊りの起源は江戸時代中期、摂津国の大社の祭司が霧島神宮改築の時に奉納した踊りといわれている。それを明治初期に横瀬地区の有志が五穀豊穰を祈願するために伝承、奉納していた。同地区の青年層の減少により途絶えていたが平成 10 年に保存会・後援会を組織し、現在に至る。

(3) 構成等

踊り手 18 人 (6 人を 1 組とする)、歌い手 4 人で構成され、白はちまき、ゆかた、白ももひき、わらじ、たすき掛けで五色の幟を立てて踊る。踊り手が鎌、木刀を勢いよく打ち合わせる音は厄を払い、無病息災・五穀豊穰を祈るためと伝えられている。

5 保存会や地域との連携の具体

平成 10 年に組織された保存会と連携し、平成 14 年から学校での教育活動の一環として伝承活動に取り組んでいる。具体的には、3 年生以上の児童が総合的な学習の時間に保存会の方々の指導を受けながら、棒踊りの起源・由来や踊りの所作等について学習する。年間 4 回の練習、藤まつり、大運動会等、発表の場では保存会、保護者の協力を得て道具の準備、着付けを行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域に伝わる郷土芸能「横瀬棒踊り」を教育活動の一環として活用することで地域への誇りや愛着、年長者への尊敬・感謝の念を育てることができると考える。具体的な取組の工夫として以下の点が挙げられる。

- ・ 年長者から年少者への伝承・・・上級生が下級生に教える場の設定

- ・ 郷土芸能を広く知らせる場の設定・・・各種イベント等での披露
- ・ 地域と保護者の連携・・・保存会メンバーから保護者への伝承

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【保存会メンバーによる指導】



【子ども同士(異年齢)の教え合い】



【和気神社「藤まつり」での発表】



【合同運動会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 横瀬棒踊り保存会

子どもの数が年々減る中で、棒踊りの伝承も難しくなっていると感じている。その一方で、子どもたちの練習の様子を見ていると「伝統を絶やしてはいけない」、「伝統を受け継ぐのは子どもたちだ」という思いが強くなる。

学校の授業だけでは練習回数が足りないことや小学校を卒業すると棒踊りをする機会がなくなるといった課題はあるが、今後も小学校と協力しながら伝統を後世に伝えていきたいと思う。

(2) 中津川小学校6年生

横瀬棒踊りは難しいけれど、大切な伝統なので受け継ぎたいという気持ちで練習している。「藤まつり」や運動会で棒踊りを発表するときは「この勇ましい動きが伝わってほしい」という気持ちで頑張っている。拍手をしてもらえると、とてもうれしい。僕が踊りを教えた3年生が上手になる姿を見ると、教えてよかったと思う。3年生には「次は君たちが後輩に教えて、棒踊りを受け継いでいく番だよ」という気持ちを伝えたい。